

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 16号

2012/9/17 発行

株式会社 立花商店

生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、ガーナ 2012～2013年産カカオ豆5%以上減の80万トン予測ココアボード(9/14)

ガーナのカカオ豆監督機関であるココアボード (C o c o b o d) は13日、2012～13年度の同国カカオ豆の買い付け量が天候不順のため、前年度を5%超下回る80万トン程度になるとの見通しを示した。主要生産国であるガーナの生産見通し悪化で、世界のカカオ豆供給不足懸念が強まる恐れがある。

昨年(2010～2011)のカカオ豆生産量は、天候に恵まれたことや栽培技術の発達に寄与し、過去最高の100万トンに達したが、今シーズン(2011～2012)は85万トン程度の生産数量になると予測されている。ガーナの生産時期は二つに分かれ、メインクropp(10月～6月)が主に輸出用、ライトクropp(7月半ばからの11週間)は地元磨砕業者に売却される。

2、2012年のインドネシア産カカオ豆生産予想を下方修正(9/13)

インドネシア・ココア協会 (A s k i n d o) は12日、2012年の同国カカオ豆生産高予想を43万5000～45万トンとし、従来予想の47万5000トンから下方修正した。乾燥天候や作物の病害の影響が予想されるという。

また、カカオ豆輸出高は、11年の21万トンから29%減少し、15万トンとなる見通し。国内の圧砕能力増加で輸出が減少するとしている。同協会の幹部は『従来はより高水準の生産を予想していたが、高温、雨不足や害虫の問題がある。収穫量は最大でも45万トンだろう』と述べた。インドネシアは世界3位のカカオ豆生産国。

3、ナイジェリア、カカオ豆生産倍増へ取り組み。15年までに50万トンへ。(9/15)

ナイジェリアのカカオ豆生産者協会 (C O P A N) の幹部は14日、今後3年間で同国のカカオ豆生産を現在の20～25万トンレベルから50万トンに倍増させると明らかにした。C O P A Nによると、政府は約1万の改良種をカカオ豆生産地14カ所の農家に配布。2014年までに増産を開始する見通し。また、同時にカカオの栄養剤である化学肥料やカカオの疫病と戦う為の農薬などの支給も開始している。

ナイジェリアのカカオ豆の需要は安定し、成長してきたが、同国のカカオ磨砕業者への需要はこの数年減少している。原因は、欧州市場からの需要減退で、同国の磨砕可能数量(キャパシティ)は15万トン

程あるが、今年は2万トン程度の加工数量になると見込まれている。

1986年に国内でのカカオ豆磨砕業者の規制を撤廃した際には、同国では23万トンが磨砕されていたが、現在はカカオ豆での輸出国のイメージが強い。

弊社の視点：

弊社では現在唯一ナイジェリアのカカオ磨砕業者の中で需要減退にも負けずに頑張っている企業と言える同国内トップ企業である Multi-Trex 社の商品を取り扱っています。同社からの情報では、今回の50万トン増産への取り組みは、実際に目標として掲げられており、期待を寄せているとのこと。但し、一方では、実際に配布した改良種を農家がしっかりと育成していく意欲があるのか、技術があるのかなどのソフト面の懸念があるとの意見を持っています。

また、弊社の調査によると、通常ナイジェリアでのカカオの単位収穫数量は800kg/ヘクタール程度はあり、土壌は良く、生産性は西アフリカの中でも比較的高いようです。人口が1億以上で経済的にもアフリカを牽引する西アフリカの大国がカカオのような繊細で栽培が難しい割に、単価が安い作物をどれだけ今後拡大していけるのか、ナイジェリアカカオを扱うものとして Muti-Trex 社のコメント同様に期待する半面、心配もしながら注視していきたいと思えます。

当社では、ナイジェリアでトップの磨砕数量と、品質を誇る Multi 社の下記商品を扱っております。

- ・ナイジェリア産カカオマス

特徴 **風味**：ガーナ産と同様 / **価格**：ガーナより平均5~10%低い

- ・ナイジェリア産ココアパウダー

特徴：**風味**；シングルビーンズでアジア産のブレンド品より濃厚/**価格**：アジア産パウダーとほぼ同様

現在、日本での在庫は終了しておりますが、サンプルのご提供は可能ですので、ご興味のある方は営業担当者までお問い合わせ頂ければ幸いです。

資料)：ナイジェリアのベーシック情報



IMFの統計によると、2010年のナイジェリアのGDPは2066億ドルであり、福岡県とほぼ同じ経済規模である。ブラックアフリカで最初にOPECに加盟を果たし、アフリカ大陸ではエジプトと共にNEXT11にも数えられており経済規模は南アフリカ、エジプトに次ぎアフリカ第3位と経済規模も大きい。

石油生産量世界12位、輸出量世界8位の世界有数の産油国であり、肥沃な土壌ではトロピカルフルーツや野菜の生産が盛んだった。南部では輸出用作物としてカカオやアブラヤシ、サトウキビ、自給用としてキャッサバ、ヤムイモが栽培され、北部では輸出用作物として落花生、自給用としてトウジンビエ、トウモロコシがおもに栽培されており、それぞれ世界有数の生産国であった。しかし政府歳入の80%、GDPの40%を石油に頼る過度の石油依存により、カカオを除く在来の輸出農業は衰退。さらに政治の腐敗、放漫財政とオイルブーム後の巨額の累積債務の

4、最新の相場情報:NY市場、6日ぶり反発=ロンドンも高い[LDN・NYココア](9/14)

9月14日(金)のニューヨーク市場は6営業日ぶりに反発、12月きりは29ドル(1.1%)高の**2642ドル**で引けた。ただ週間ベースでは1.2%安となった。

西アフリカの新年度が始まって2週間しかたっておらず、ディーラーらが供給の問題が発生する可能性に神経質になっていることから、下値のリスクは限定的とみられている。

コートジボワールの業界改革の詳細が依然として不透明なことに加え、西アフリカ地域の気温低下が作物に影響を与える可能性が、ディーラーらの懸念要因となっている。同日のロンドン市場も反発、12月きりは4ポンド(0.24%)高の**1692ポンド**で終了した。

また、欧州市場のカカオ豆の実際の取引価格については、相場に加えてプレミアムも上昇中

***得に積み時期の早い契約については得にプレミアムが上昇している。**

ガーナ産:LDN市場価格に対して、2013年3月きりに対してプレミアム+100£/Mt

コートジボワール産:LDN市場価格に対して、2013年3月きりに対してプレミアム+70£/Mt

欧州現物市場でのココアバターレシオ:LDN市場価格に対して 1.60

5、チョコレート企業各社がアジア産ココアバターを求め、レシオが1年ぶり高水準に(9/14)

欧米のチョコレートメーカー各社が、ホリデーシーズンを前にした需要で、アジア産のココアバターを買い求め現在アジア産のココアバターのレシオは2011年初旬以来の高い水準に達している。

また、ココアパウダーの市場も活況で、クリスマスと、年末休暇を前にしたアジアのチョコレート企業からの需要が安定している。

『今年の需要は非常に強い。ココアバターのレシオもとても上がっているし、直近の出荷については在庫が不足していて、いくつかの企業が取り合いで買付けしてくるような状況もある』とマレーシアのトレーダーは現況を説明する。

『これまでバイヤーは短期的な必要分のみを買っていたが、今は供給を心配している。パウダーの需要も夏季休暇シーズン終了後は良くなってきている』

ココアバターのアジア市場でのレシオはLONDON市場価格に対して、1.40で先週と変わらず堅調。

欧州市場でのココアバターレシオは既に1.60であり、欧州の磨砕業者が生産を縮小、調整していることからココアバターとココアパウダーの供給不足が懸念され、アジア市場のバター価格が欧州を追い追う様相になってきている。

シンガポールのトレーダーは『今週はバターを来年前半の積み時期の契約分で1.40レシオで販売した。ココアパウダーも高値に向かっていて価格は\$3,850/Mtになっている。需要は良いが、磨砕業者の視点では損益分岐点を超える為には、バターのレシオもココアパウダーの価格も更に上げなくてはならないだろう』と予測した。アジア市場でのココアパウダーの価格は今週\$3800~\$4,000/MTであった。

5、需要増にてカメルーンでの農家出荷価格は上昇中(9/14)

世界第5位のカカオ生産国であるカメルーンでの農家からのカカオ出荷価格(Farm Gate Price と呼ぶ)は需要の増加と良好な生育状況を反映して、先月に比べ、9月の半ばまでに同じ地域で約10%程度値上がりしていることが報告された。

同国の南西地域の主要なカカオ流通の拠点である Kumba 地区では、先月は 1,025CFA フラン*(≒\$2.05)/kgから現在 1,140CFA フラン (≒\$2.28) /kgに上昇した。

また、中央地域の主要なカカオ流通の拠点である Bafia 地区のある生産者組合のリーダーである農家は、その地域での価格は現在の価格は 1,075~1,100CFA フランであると報告し、同地域の別の農家は、先月は 1,000CFA フランであった価格が現在は 1,025~1,075CFA フランに上昇していると発言した。

前述の Kumba 地区のカカオの栽培&輸出業者 Camco 社のマネージャは『現在カカオは 1,140CFA フラン/kgで販売されている。これはこの3年のシーズンの中で最も高い価格だ』と語っている。

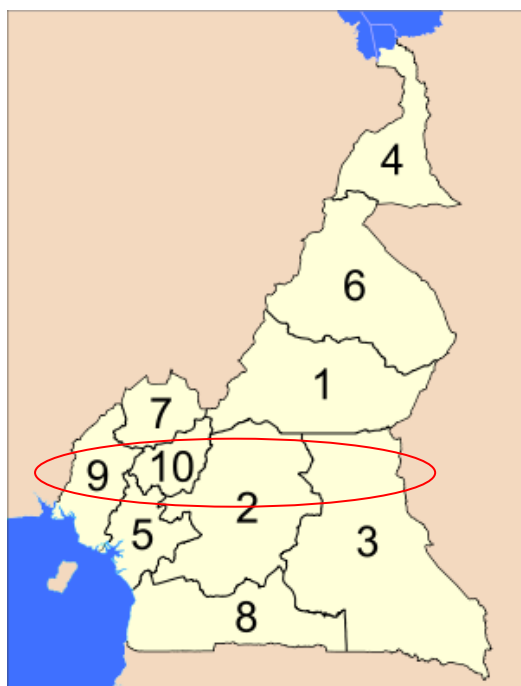
『この価格は順調な日照りに支えられており、晴れている日が多いことで、乾燥を容易にするだけでなく、遠く離れた内陸地の農園からのカカオ豆の輸送にも良い影響を与えている。』

『更に、経済の中心都市である Doula より沢山の買付け人がカカオの買付けに来ており需要も堅調である』

Camco 社は、カメルーンで第3位のカカオ輸出業者。(1位は OlamCam 社、2位は TelcarCocoa 社)

*注) CFA フラン (セーファーフラン、仏 Franc CFA) は、西アフリカ、中部アフリカ地域の旧フランス植民地を中心とする多くの国で用いられる共同通貨。

資料) カメルーンの10の地域とカカオの主要産地について (赤が主要産地)



1. アダマワ地域
2. セントラル地域 (中央州)
首都ヤウンデが存在する。
3. イースタン地域 (東部州)
4. サバナ地域
5. リトラル地域 (沿岸州)
6. ノーザン地域 (北部州)
7. ノースウェスタン地域 (北西州)
8. ウェスタン地域 (西部州)
9. サザン地域 (南部州)
10. サウスウェスタン地域 (南西州)

参考資料) 下記の統計は同国の地域毎の農家出荷価格の調査結果である。

(\$1 = 498.9210 CFA francs)

	<u>September</u>		<u>August</u>	
<u>South-West</u>				
Mamfe	975 - 1,015 CFA/kg		950-1,000 CFA/kg	
Konye	1,025-1,100	"	1,000-1,015	"
Kumba	1,140	"	1,000-1,025	"
Muyuka	1,050-1,100	"	1,010-1,015	"
Mbonge	1,100	"	NA	
<u>Centre</u>				
Bafia	1,075-1,100	"	1,050	"
Emana	1,025-1,075	"	1,000-1,025	"
Mbalmayo	1,050	"	1,000-1,015	"
<u>South</u>				
Ebolowa	1,015-1,050	"	1,010-1,015	"
Sangmelima	1,000-1,050	"	1,010	"
<u>East</u>				
Bertoua	850-875	"	800-850	"
Yokadouma	800	"	750-775	"

6、テーマ特集：フェアトレード（第2回）



前回よりスタートした特集記事“フェアトレード”ですが、2回目の今回はそのフェアトレードの基準となる『国際フェアトレード基準』について調べてみたいと思います。フェアトレードの基準はその認証を行う機関にとって其々異なりますが、左記の国際フェアトレードマークの場合を例にして、その基準を確認してみたいと思います。

『国際フェアトレード基準とは』

国際フェアトレード基準は、経済的基準、社会的基準、環境的基準の3つの柱によって成り立っています。フェアトレード参加組織に対し定期的に実施される監査では、原料の生産から輸入、製造をへて完成品となるまでのすべての過程で基準が遵守されているかをチェックしています。

概要

「国際フェアトレード基準は、FLOによって設定されるフェアトレード全般に関する基準です。これらの基準は、FLO基準委員会（FLO Standards Committee）と全てのステークホルダー（フェアトレードに参加する生産者や貿易業者など）によって、定期的に見直されています。

基準は、「生産者の対象地域」、「生産者」と「トレーダー（輸入・卸・製造組織）」のそれぞれが守るべき包括的基準と、対象産品毎に定められた「産品基準」で構成されています。生産者とトレーダーは、包括的基準と産品基準の両方を守り生産や取引を行う必要があります。

生産者とトレーダーが守るべき主な項目は、下記表1の「経済的基準」、「社会的基準」および「環境的基準」に大きく分ける事ができます。

表) FLO 国際フェアトレード基準概要

経済的基準	社会的基準	環境的基準
<ul style="list-style-type: none"> ▶フェアトレード最低価格の保証 ▶フェアトレード・プレミアムの支払い ▶長期的な安定した取引 ▶前払い 	<ul style="list-style-type: none"> ▶安全な労働環境 ▶民主的な運営 ▶労働者の人権 ▶地域の社会発展プロジェクト ▶児童労働・共生労働の禁止 	<ul style="list-style-type: none"> ▶農薬・薬品の使用に関する規定 ▶土壌・水源の管理 ▶環境に優しい農業 ▶有機栽培の奨励 ▶遺伝子組み換え (GMO) の禁止

FLO フェアトレード基準の最大の特徴は、生産コストをまかない、かつ経済的・社会的・環境的に持続可能な生産と生活を支える「フェアトレード最低価格」と生産地域の社会発展のための資金「フェアトレード・プレミアム（奨励金）」を生産者に保証している点です。

フェアトレード最低価格とプレミアムは、生産地域の物価・経済状況等と、買い手側の意見を考慮し綿密な調査と総合的な判断により、産品ごと、生産地域ごとに明確に設定されています。

では、より具体的にかカオ分野のフェアトレード価格の決定方法について、調べてみます。

表) カカオ関連商品のフェアトレード最低価格とフェアトレード・プレミアムの一覧

商品類	商品タイプ	地域	通貨／単位	価格条件	最低保証価格／MT	フェアトレードプレミアム/MT	歩留まり設定
Cocoa (Cocoa)	一般 カカオ豆	全対象地域	USD / 1 MT	FOB	USD2000/MT	200,00	—
Cocoa (Cocoa)	一般 カカオマス	全対象地域	USD / 1 MT	FOB*	交渉、または指定の計算式に準じる	250,00	0.8
Cocoa (Cocoa)	一般 ココアパウダー	全対象地域	USD / 1 MT	FOB*	交渉、または指定の計算式に準じる	470,00	0.424
Cocoa (Cocoa)	一般 ココアバター	全対象地域	USD / 1 MT	FOB*	交渉または、指定の計算式に準じる	530,00	0.376

現在の価格を参考にして、各カカオ製品にたいしての価格の設定方法を見てみましょう。

①カカオ豆：

現在の相場が\$2650/Mt とすると、最低保証価格以上なので、プレミアムのみを加算するフェアトレードカカオ豆価格=**\$2,850/MT**

②カカオマス、ココアパウダー、ココアバター

一方、カカオ豆からの派生加工品であるカカオマス、ココアパウダー、ココアバターについては、基本的な考え方は下記になります。

当該商品の一般的な市場価格+フェアトレード・プレミアム

*フェアトレード・プレミアムは上記の表を参照のこと。

*但しカカオ豆の価格はカカオ豆の最低保証価格以上をベースとして算出する。

但し、一般的な市場価格では製造者とトレーダー間等で共通の指標がない為に、決定出来ない場合などに基本の計算式として、下記を参考にすることもあります。

計算式 = (カカオ豆価格 ÷ 歩留まり) + 製造者の想定コスト + フェアトレード・プレミアム

カカオマス : (\$2650 ÷ 0.8) + 製造コスト\$550 + FT プレミアム\$250 = **\$4,112/MT**

ココアパウダー : (\$2650 ÷ 0.424) + 製造コスト\$700 + FT プレミアム\$470 = **\$7,420/MT**

ココアバター : (\$2650 ÷ 0.376) + 製造コスト\$700 + FT プレミアム\$530 = **\$8,277/MT**

以上の計算式は見ての通り、現状の価格と比較すると、非常に高くなりますので、実際には、一般の市場価格+フェアトレード・プレミアム価格での取引が大半を占めると考えられます。

まずは、実際にフェアトレードでの取引を行う場合には、カカオ豆にしてもカカオ製品にしても、生産者や製造者側がフェアトレード認証を取得していることが大前提になりますので、まずは生産者側がフェアトレードの仕組みを利用して、収入向上を目指して認証取得に動くアクションが必要です。但し、このやり方の様に、生産者がまず最初に取得する場合、取得したのは良いが、実際には顧客が見つからず費用ばかりがかかってしまうという本末転倒な状況になることも実際の現場では散見されます。

この様な課題に対して最近では、欧米などの通常カカオ豆を購入しているトレーダーやメーカーが生産者と共同プロジェクトでフェアトレード認証を取得して進めていくケースが増えています。

今後はより生産者と最終のユーザーまで一緒になった取り組みで最終製品にその付加価値をしっかりと訴求していく取り組みが成功事例を生んでいくだろうと思われています。

とはいえ、日本で製造されたチョコレート製品になかなかフェアトレード商品が増えないのは何故なのでしょう？原料の購入のことを今回調査したので、次回以降の特集では日本市場でフェアトレード氏

製品を出していくためにどのような課題があるのか、実際に調査していきたいと思います。

*フェアトレード関連情報はフェアトレードラベル・ジャパンのHPを参照しています。

*ニュースソースは特記がない場合以外は、ロイター通信社の情報を加工し提供しています。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田 TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp